

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）
（多施設共同研究用）

西暦 2020 年 7 月 7 日作成 第 1 版

研究課題名	切除可能大腸癌転移性肝癌の治療成績に関する観察研究
研究の対象	1992 年 4 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までに、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立大学附属病院で転移性肝癌に対して肝切除術を施行した患者さん
研究目的 ・方法	切除可能な大腸癌肝転移における術前化学療法の有効性を検討することを目的としています。診療録からデータを収集して行いますので、対象の方にご負担になることはありません。
研究期間	許可日から 2026 年 12 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の 種類	日常診療で発生したデータを診療録から収集します。 ・背景情報：年齢、性別、既往歴、併存疾患、身長、体重 ・血液検査：血算・白血球分画、凝固、腫瘍マーカー ・機能検査、画像検査結果：安静時 12 誘導心電図、呼吸機能検査、胸部 CT、腹部・骨盤造影 CT、腹部造影 MRI、PET-CT 検査 等 ・術前診断(TNM 分類) ・周術期治療の種類 ・化学療法:レジメン投与期間, DI, 全グレードの血液・非血液毒性 ・血管内治療、局所療法 ・術前治療(化学療法)の効果判定 ・手術情報：手術時間、出血量、術式、吻合法、術中合併症、開腹移行の割合 等 ・開腹開始から手術終了（閉腹）までに発生した合併症 ・病理所見
外部への 試料・情報の 提供	下記の通り当院に集積したデータは、共同研究機関と共有する場合があります。その際もデータは匿名化し、パスワードをかけて授受します。共同研究機関においても、当院と同様に保管・廃棄を行います。
外部からの 試料・情報の 取得と保管	共同研究機関から、匿名化しパスワードをかけた状態でデータの提供を受けます。提供を受けたデータは、当院のデータとまとめ、研究代表機関の消化器病センター外科の医局の、ネットワークから独立したパソコンで管理します。本研究の終了日から 5 年後又は本研究の結果の最終の公表について報告した日から 3 年後のいずれかの遅い日までの期間、厳重に保管し、その後復元できない方法で廃棄します。
研究組織	研究代表機関：横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科 武田和永 共同研究機関：横浜市立大学附属病院 消化器・腫瘍外科 中山岳龍

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

(多施設共同研究用)

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話または FAX でお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科 武田和永

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-261-9492

Informed consent statement: The requirement for written informed consent was waived owing to the retrospective nature of the study.
Information disclosure documents are also attached.